

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

2号館

事業者名	グループホーム まごころ 2号館	評価実施年月日	平成21年 7月 30日
評価実施構成員氏名	介護支援専門員 押岡 郁子 管理者 山口 千賀子	介護員 " " " "	秦 登志子 中村 希美 川辺 育恵 加藤 紀美枝 松本 容子
記録者氏名	押岡 郁子	記録年月日	平成21年 8月 5日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>今までの基本理念と共に新しく地域密着型サービスとしての理念を作り、地域の人々とふれ合いながら、その人らしく安心した暮らしの継続性を理念として、職員全員で確認している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎朝ミーティングや申し送りの時、理念を読み上げ職員間で意識付けしている。又、日々のサービスに反映されているかふり返り話し合っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族には入居時や訪問時に繰り返し伝え事業所の役割を説明している。又、ホーム便りも作成している。地域の人々には町内の催物やイベント等に積極的に参加し理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>日常的に散歩や買い物に出掛け、近所や知り合いの人と挨拶を交したりお話しをしたり、気軽に交流出来る様に努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に加入しており地域の行事に参加し、ボランティアを受け入れる等交流を図っている。又事業所の行事に地域住民を招待したり町内会の行事に招待されたりと地域との良好な関係が保たれている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ボランティアや学生の総合学習(福祉)の受け入れを行っています。認知症に対する理解や接し方、グループホームのケアなど学んでもらい啓発に努めています。</p>	○	実習生・体験者等の受け入れを考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組みました。又外部評価の結果は職員会議等で報告し、改善に向けて具体的に検討し実践している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催しています。事業所の運営方針・現在取り組んでいる事を報告し、参加メンバーから質問や意見・要望を受けサービスの向上に活かしています。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険の担当窓口とは常に連絡を取り合っています。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	機会があるごとに職員に説明をして理解を深める様にしているが、現在まで対象となるケースは無かった。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から冊子等を用いて高齢者虐待法について説明し理解している。又、講習会にも参加し勉強している。全員が周知徹底している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は契約書・重要事項説明書は書面と口頭で解りやすく説明し理解してもらっています。利用者や家族が不安に思うことや疑問等を丁寧に聞き、納得を得ています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が意見や要望など言える様に日頃から良い関係を作っている。又、自分の気持ちを上手に表わせない人には表情や言動から本人の意向を知り、また出された意見は運営やケアに活かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月事業所便りを送っています。利用者個別に日常の暮らしや健康状態、その月の催物の時に写した写真等も同封しています。金銭管理については領収書を添付した現金出納帳を家族が来所された時確認して頂いております。職員の移動の時はお便りの中で紹介しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には事業所便りや訪問時など、常に問いかけている。又、何でも気兼ねなく言ってもらえる様な雰囲気作りを積極的に行っている。出された意見や要望はミーティング等で話し合い運営やケアに反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で職員の意見や要望を聞くよう心掛けているが、職員の意見や不満は把握しきれない部分もあるのでコミュニケーションを多くとるようにし、働きやすい環境の確保とケアの質の向上に努めています。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	運営理念に添って利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられる様、起床時・就寝時・入浴等利用者の状態に応じたローテーションを組んでいる。管理者は利用者の状態の変化や夜間等柔軟に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットの職員は基本的に固定化し馴染みの関係を保ち家族との信頼関係を築いているが、離職などやむを得ない場合は十分な引き継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修会には交互になるべく多く参加する様になっている。又研修報告は職員会議の時行っている。日常的に学ぶことを推進し、ケアに関する情報提供をし知識・技術を学ぶよう配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム協議会に加入しており、ネットワーク作り・勉強会・研修会・個々のグループホームサービスについて意見交換しケアの向上に取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスについて気を配り、十分話しを聞く様になっている。又、気分転換できる休憩室を確保し心身を休める場所を提供している。職員の親睦会も行っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	労働基準法に添って就業規則・健康診断(年2回)など実施し、健康面・職場環境に配慮している。職員の資格取得を支援し取得後、本人の意向を重視し向上心を持って働ける様に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人に面会し事前に生活状況・心身の状態や苦しんでいる事・困っている事・不安に思っている事を把握し受け止め安心してもらおう。職員が本人に受け入れられる様信頼関係を築いていく。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	現在に至るまでの苦労や困っている事、家族が求めている事を理解し受け止め安心してもらおう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な利用者には家族と相談しながら柔軟に対応しているが、当事業所での対応が無理と判断した場合は他のケアマネージャーと相談し、他のサービスにつなげている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に施設を見学してもらい事業所の雰囲気を感じてもらう。又スタッフが自宅に向いたり、ホームに遊びに来てもらうなどしながら、本人が納得し馴染める様に家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の立場に立って不安・苦しみ・喜びを共感し一緒に生活することで共に支えあえる関係作りに留意している。又、得意分野で力を発揮し自信が持てるような場面作りに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日頃の様子をきめ細かく伝えている。職員も家族の思いに添うように支援していることを伝えているので協力関係が出来ている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の日頃の生活をこまめに報告している。又、夏祭り・敬老会・クリスマス会等の行事にも案内している。又外食・外泊など本人の思いを伝え家族との関係が途切れないようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々知人や友人が訪問されます。又、電話等で交流されています。散歩や商店で顔見知りの人に会えばお互いに近況等話している場面もしばしば見受けられます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	みんなで過ごす時間には職員も一緒に加わり会話を多く持つようにしている。役割活動を通してお互い助け合いながら利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけ孤立しないようにしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居などサービス終了はほとんど交流はありません。継続的に関わる必要が無くなってしまう場合が多い。	○	死亡した時など葬儀等参列しています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で一人一人の思いを把握し、又言葉や表情からも真意を推測し対応している。本人の気持ちを大切に職員間で共有し本人の希望や意向に添える様にしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時家族から現在に至るまでの生活歴や暮らし振り、家族関係等聴き取る様にしている。入居後は本人や家族に小さな情報でも伝えてもらう様に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の生活リズムを把握する。又その日の体調・心理状態を総合的に見極め、今日できる事に注目し一日を過ごして頂けるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人には日頃の係わりの中で、その人らしく暮らせるような思いや困っている事を知り、家族には来所の時など要望を聞きケアプランに反映させている。職員間で意見を出し合い本人がより良く暮らせるための個別具体的計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画見直し以前に変化が生じた場合は即対応しなければならない場合が生じて来るので、本人・家族・職員と話し合いながら臨機応変に対応し、終了する前であっても検討・見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに食事・水分量・排泄・バイタルチェック等の身体状況・1日の生活の様子・本人の言葉・エピソード新たな発見など細かく記録しています。いつでもすべての職員が見る事が出来、情報を共有しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	定期的な受診・突発的な発熱・血圧上昇などの病院の送迎・美容室の送迎・それに伴う介助・付き添いも行っています。協力医と連携を取り毎日点滴などの通院で入院を回避したり、早期退院出来る様に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察・消防・町内会の人々・民生員などの協力を呼びかけている。図書館など地域の資源を活用している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の状況や希望で訪問理容・美容の支援を受けている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらっている。周辺情報や介護に関する情報など協力して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前と継続して係りつけ医に受診している。家族が対応出来ない利用者は、事業所で対応している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力病院に相談し指示や助言をしてもらっている。困難な事例の場合は総合病院のメンタルヘルスに受診、相談している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員・訪問看護ステーションの看護師は確保していません。指定病院で、日、祭日、深夜等救急の場合相談し判断してもらい対応しています。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には本人の情報を医療機関に提供し、医師や看護師と密に連絡を取り回復状況を知り、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院出来る様、家族と共にアプローチしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所が対応できる最大の支援を入居時家族に説明し了承してもらっている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度の利用者さんは、対応可能な限り家族と医療機関と連携を取りながらチームで支援している。</p>	○	ターミナルケアを念頭に考えていますが、まだ検討中です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活・暮らし方・支援内容・注意点など必要な事を情報提供し、きめ細かく連絡し少しでもダメージが防げる様に心掛けています。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライドを傷つける様な人前でのあからさまな介護、大声でのトイレの声掛け、利用者への言葉使い、否定した態度など利用者の誇りを傷つけない様配慮している。又、スタッフ会議等でも機会がある度確認している。個人情報人目にふれる所などには置かないなど十分に気を付けている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者との日常生活の中で本人が出来る事・行きたい場所・食べたい物等些細なことでも自分で決めてもらうように支援している。耳が遠くコミュニケーションが取りづらく意思表示が難しい人にも、ジェスチャーやカード等を利用し説明し自己決定が出来る様支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>生活リズムを保ちながらコミュニケーションを取り、本人の希望に添える様に、外出は本人の意見を尊重し「その人」らしい日々を過ごせる様に支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えなど利用者と洋服を一緒に選び、日常的にお化粧される利用者がおります。行事の時など、お化粧やお洒落を楽しんでもらえるように取り組んでいます。散髪は定期的に来てくれます。美容院は本人の希望される所に行っています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その日のメニューに添って、それぞれの能力に合わせ料理の下ごしらえから配膳・後片付けまでスタッフと一緒にしています。職員は利用者と同じテーブルで同じ物を食べ、楽しい雰囲気での食事の時間を過ごすことを大切にしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の好みや意向を大切に考え、自宅に居る時と同様に嗜好品を楽しんでもらえる様支援しています。タバコを吸う利用者さんがおられます。他の利用者に迷惑のかからない様に決まった場所で吸ってもらう様工夫しています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は綿パンツで過ごしてもらっています。尿もれなど有る利用者さんにはパットのみを使用しています。自宅で紙パンツを利用していた人も排泄パターンを把握してこまめにトイレ誘導をし、トイレで排泄してもらい快適生活を心掛けています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴支援を行っています。浴室は広々とし、仲の良い同士は一緒に入ったりしてゆっくりと楽しみながら入浴しています。シャワー浴はいつでも自由に利用出来る様対応しています。	○	建物・設備の関係で毎日の入浴は理想だが、無理なので実施出来ない。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中はラジオ体操や散歩をして身体を動かすようにしている。居室の清掃・寝具の清潔に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を知ることにより得意分野を把握し出来る事を見つけ、してもらっています。褒め言葉・感謝の気持ちを伝えて持てる力を発揮出来る様働きかけをしています。気晴らしとして外出・ドライブ等利用者さんと相談しながら行っています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が出来る利用者には手渡ししているが、大金は管理者が管理し保管している。利用者の要求がある時には本人に手渡し、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や利用者の体調に合わせて日常的に外出支援を行っています。散歩・商店への買物・ドライブ等、季節を肌で感じてもらっています。歩行状態の悪い方も車イスやシルバーカー等で本人に合わせた支援をしています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が行きたいと希望された時は家族と相談し、可能な限り思いが叶う様に支援している。	○	家族の協力を得て小旅行なども考えている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ホームには公衆電話を設置しており、利用者が自由な時間に対応出来る様に支援している。利用者に手紙など来た時は返事を書くように声掛けしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔で話しやすい雰囲気作りを意識し、居室にてプライバシーを尊重し過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ会議などで身体拘束は行わない事を全職員に徹底して確認している。ドアを開放し、すべての職員が見守り強化し身体拘束をしないケアをしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が居室に鍵を掛けてしまう以外はドアを開放し、その人らしい生活を送れる様に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	屋は利用者の見守りをしながらコミュニケーションを取り、夜間は安全に就寝しているか巡回している。体調の変化・異変が見られた時には、見守り強化して配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて対応している。薬品や洗剤・刃物・ライター等は保管管理をしている。利用者が使用する時は注意し見守っています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の利用者の状況を把握し事故を未然に防ぐよう職員間で検討し取り組んでいる。ヒヤリハットを記録し職員間で原因を究明し今後の事故防止に役立てている。	○	転倒防止のため、廊下・浴室・居室に手摺りセンター等取り付けしています。誤薬防止のため、薬に日付け・名前を記載している。その他玄関にセンサー・居室にコール等対応している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の講習を受講している。救急救命・蘇生術など全職員が対応出来る様になっています。夜間はマニュアルを作成しています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保・消火器の使い方など定期的に行っている。地域の協力が得られるように働きかけている。	○	事業所に火災時のスプリンクラー・火災警報器も設置され、使用法等全職員が周知しています。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に事業所の取り組みを説明し、安全を確保しながら自由に暮らしていく大切さを丁寧に説明しています。予測されるリスクを家族に率直に話し理解が得られる様努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを実施している。個々の体調・食欲や顔色の変化など見逃さず早期発見に取り組んでいる。対応については職員間で共有し、観察記録を取り医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬の内容を把握出来る様、服薬ファイルはいつでも見れるように個別に整理してある。薬の処方が変わった時は、申し送り事項欄に記入し職員に通知しています。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用出来ているか確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックをしています。便秘予防として水分の確保・食量・繊維質の多い食材・乳製品等提供しています。又散歩など、なるべく身体を動かすよう声掛けしています。下剤は排便チェック表で確かめ、何日も無い時のみ使用している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時・毎食後・口腔ケアの声掛け見守り、介助にて清潔保持に努めています。就寝前は口腔ケアと共に義歯の洗浄も行っています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食量・水分量を記録し、栄養のバランス、水分量が確保されているか確認しています。食事制限のある方等は個別対応しています。定期的に地域の栄養士さんにアドバイスをもらっています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については、地域で実施する講習会に出席するなど情報収集をし予防対策に努めています。又、家族の了解を得てインフルエンザの予防接種を利用者・職員全員受けており、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用している。	○	うがい・手洗い・消毒の励行。暖房・トイレ・手摺り・ドアノブの消毒はこまめに行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布巾・食器・調理器具は毎日消毒しています。冷蔵庫も点検し食材の鮮度を確認し冷凍したり捨てたりしていますが、買い置きは極力避け、毎日買い物に行くようにしています。新鮮で安全な食材を使用する様に心掛けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口には解りやすい様に案内板を掲示してあります。玄関はスロープもあり、明るい雰囲気になるように花壇やプランターに花など置き季節感を出しています。又広いサンルームにベンチ等を置き気軽に立ち寄ってもらえる様工夫してある。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は広々としているフロアには利用者さんの季節ごとの作品が飾られている。居間・居室にはブラインドが取り付けられ光の調節をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にはみんなが寛げるソファが置いてあります。ホールには、仲の良い人同士や一人で過ごせる様に椅子とテーブルが用意され、思い思いに過ごせる様にしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具・仏壇・思い出の作品が持ち込まれています。自分の生活スタイルに合わせた馴染みの物など用意され、安心して過ごせるスペースを作っている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節は利用者の様子を見ながらこまめに行っています。空気の入替えは一定の時間帯に行い、トイレ等は換気扇や消臭剤で悪臭が無いように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手摺りは廊下の両側についており安全に歩けるようにしている。又、居室・トイレ・浴室などにも取り付けてある。常に利用者の状況に合っているか、使いやすいか等見直ししながら自分の力を活かし自立して生活が出来る様配慮している。	○	ベット柵につかまり自分の力で起きています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗が続く利用者には、居室ドアの前に名前を付けたり、目印など本人が解りやすい様に工夫しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花壇があり、裏には広々とした畑があります。利用者は花を觀賞したり畑に行ってトマトやキュウリなど収穫したり日常的に活動しています。サンルームにはベンチが置かれ日光浴や談話などしています。又、時にはおやつを食べたり歌を唄ったり楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>利用者の思いや要望に耳を傾け利用者本意のサービスを心掛けている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>ゆとりとやすらぎのある暮らしを支援している。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>一人一人に合わせた個別支援をしている。自由に自分のペースで生活している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員の声掛けや支援により、生き生きとした表情が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>散歩・買い物・ドライブ・外食など身体状況に合わせ希望に添って支援している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>気付き・見守り・観察など強化し、不安なく過ごしている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>一人一人柔軟に対応しているので安定している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>利用者の日常生活を報告したり要望を聞いたり信頼関係ができています。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>ボランティアさんや介助犬を連れて地域の人が立ち寄ってくれている。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>町内会・地域の人など事業所の事や利用者の事など理解してくれる人が増えてきている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員同士がコミュニケーションを取り、意見交換しながら生きがいを持って働いている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>日々の生活・食事・行事・スタッフの対応など満足されていると思う。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>家族の来所も増え、行事にも参加されているのでほぼ満足していると思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

地域と共存し、その人らしい暮らしを続けていくため日々の支援を重視している。

緑が多く広い畑、土と触れ合いながら、のんびりと落ち着いた生活が維持されている。